



## 「バイオマスが循環するまち」

### 岡山県真庭市研修ツアー

行政・企業・市民が一体となって「バイオマスタウン」を模索する  
岡山県の北端、真庭市の視察・研修会に参加しました

真庭市は現在、森林率80%を誇り、市内に原木市場が3ヶ所（扱量12万 $\text{m}^3$ /年）、製材所30ヶ所（扱量20万 $\text{m}^3$ /年）そして木材集積場も各所にあります。

今回私たちは、高浜市大飯町の地域づくりグループと金沢大学の学生グループとに同行しました。

まずは木の香りいっぱいの「木の駅（木材ふれあい会館）」に到着。市のバイオマス政策担当者から木材資源（バイオマス）の地域循環を基本とした「まちづくり構想」とH27年に1万キロワットの発電所を開業する事業計画についての説明をうけました。そしてバイオエタノールや廃油などをBDFとして製造（精製）する事業者からも興味深い報告を聞きました。



次に、集成材の製造では世界的にも名高い「銘建工業」を見学。木くずを利用した2000kWの発電所を所有、さらに規模の大きな発電所建設の計画も聞きました。森林組合も活気に溢れ、十分な産業の土台を備えている感がありました。説明してくれた皆さんの口からは「木くずから木の皮まで全部利用することを考えているだけ」



と。この平易な意味は大きいと思いました。

古代から京都と出雲を結ぶ出雲街道の要衝であり、山深い条件を生かした「美作杉・檜」のブランドの産地であったこの土地には、木材を最大限活かすことによって街を活性化するという思想が要所に見受けられました。

平成の大合併で9町村が一体となった真庭市ですが、山間地であるだけに人口流出（現在人口5万人）や高齢化の問題にも直面しています。しかし、蒜山（ひるぜん）高原の畜産業や豊かな自然を生かしたグリーンツーリズム、カーボンニュートラルを目指した木質資源の循環するまちづくり、木造の美しい小学校（旧）や酒蔵を中心とした美しい街並み保存地区、そしてそれらをつなげる活発な観光事業。温泉も多く、料理もおいしく、またぜひ訪れたいと心に決めた研修ツアーでした。

エコランドいとはしもと（伊都・橋本地球温暖化対策協議会）  
代表 佐藤 俊

約 200 の国によって構成される「気候変動に関する政府間パネル」(IPCC)は 9月26日 第5次評価報告書のうち第1作業部会報告書を承認、その政策決定者向け要約を公表した



### 気候システム・気候変動の科学的な根拠がテーマ

IPCCは、各国政府や政府が推薦した専門家を中心に、気候変動現象やその影響、対策などについて科学的な見地から包括的な評価を行う組織であり、5～6年に一度公表される評価報告書は、いわば世界共有の地球温暖化問題のテキストとして、国際的な取り組みや交渉に科学的根拠を与えてきた。

第1作業部会報告は、気候システムや気候変動の自然科学的な根拠がテーマ。今後引き続き、気候変動がもたらす自然や社会経済への影響などをテーマとする第2作業部会の報告が来年3月に、また気候変動緩和の方策等をテーマとする第3作業部会の報告が同4月に、順次公表される予定となっている。

今回公表された報告では、①気候システムの温暖化については疑う余地がない、②その温暖化の主な原因は人間活動であった可能性が極めて高い(95%以上)、③1986～2005年を基準とした2081～2100年の世界平均地上気温の上昇は最大4.8℃、④同じ基準で世界平均海面水位の上昇は最大0.82m、といった評価が述べられている。

### 気候モデルの変更と人的要因「ほぼ断定」

2007年に公表された第4次評価報告に比べ、気温上昇予測の最大値が下がったと報じたマスコミがあったが、これは基準年の取り方が変わったことと気候モデルの構成要件が変わったためであり、これらを考慮すれば前回の予測(0.64℃)と基本的に齟齬はない。また、海面水位の上昇については前回(0.59m)よりかなり大きな予測となっている。

だが大切なことは、こうした気温や水位の細かな数値ではなく、気候変動の原因が人為にあるとほぼ断定したことだ。いま公表されている範囲では、今回の報告はそのほとんどが既に我々が認識していた範囲内に止まり、衆目を驚かせる新奇な内容はないが、観測や評価の精度がさらに上がったことが読み取れる。その上での「断定」の意味は重い。

その人為について、欧州の研究チームは8月末の英科学誌ネイチャー誌に、「気温上昇を2度程度にとどめられる二酸化炭素の排出量は、2000年から50年までに世界で1兆トンだが、この9年間に既にその3分の1を排出してしまった」とする研究結果を発表している。現状のまま推移すれば気温上昇が遅からず2℃を突破することは確実だ。

### 国際交渉での存在感の低下 市民のさらなる合意と実践

それを阻止する温室効果ガス排出削減の国際的な枠づくりが、依然として国益の思惑に引きずられつつも、とにかく米国や中国も含め動き始めている。しかし日本は、鳩山首相(当時)が国連で表明した「2020年に90年比25%削減」の公約を店ざらしにしたまま効果的な対策を怠り、さらに政権交代後はこの公約の見直しを示唆するだけで未だ2020年の中期目標すら示せず、国際交渉での存在感の低下は覆いがたい。

ただ、政府はどうあれ、温暖化対策で我々が草の根で取り組むことに違いはない。それぞれの地域で家庭や事業所の省エネ、食料やエネルギーの地産地消、さらにこれらを含むスマートシティづくりに、できるだけ多くの人々と協働で取り組むこと。今回のIPCC報告をしっかりと読み込み、それを地域における啓発、さらには合意と協働を広げる軸として、実践に活かすことこそが重要なのではないかと思う。(重栢 隆)

変化	シナリオ	2046～2065年		2081～2100年	
		平均	可能性が高い予測幅	平均	可能性が高い予測幅
世界平均地上気温の変化(℃)	RCP2.6	1	0.4～1.6	1	0.3～1.7
	RCP4.5	1.4	0.9～2.0	1.8	1.1～2.6
	RCP6.0	1.3	0.8～1.8	2.2	1.4～3.1
	RCP8.5	2	1.4～2.6	3.7	2.6～4.8
世界平均海面水位の上昇(m)	RCP2.6	0.24	0.17～0.32	0.4	0.26～0.55
	RCP4.5	0.26	0.19～0.33	0.47	0.32～0.63
	RCP6.0	0.25	0.18～0.32	0.48	0.33～0.63
	RCP8.5	0.3	0.22～0.38	0.63	0.45～0.82

表1 RCPシナリオによる21世紀中頃(2046～2065年)と21世紀末(2081～2100年)における、世界平均地上気温と世界平均海面水位上昇の変化予測。複数の気候予測モデルに基づく、1986～2005年の平均に対する偏差。「可能性が高い予測幅」は、モデル予測の5～95%の信頼幅。

# クローズアップ

## わたしたちの活動（23）

このコーナーはわかやま環境ネットワークに参加する団体や企業、個人の活動と今後の展望を紹介します。

今回は県内の各地で活動されている

[和歌山県生活学校連絡協議会]のとりくみを紹介いたします。

和歌山県生活学校連絡協議会では、長年にわたって地域に根ざした様々な活動をしてきました。

最近では子供の食育に取り組み、毎年3校～4校が地産地消を含めて子供対象の「食育体験講座」を積み重ねるなどしております。

その傍ら、平成20年～24年までの5年間、小中学生の「食生活アンケート」を続け、毎年500を超えるサンプリングの集計分析をしてきました。結果、子供たちの朝食が菓子パンだけだったり、お菓子を食べてご飯の代わりにしていたり等、問題点がありました。



小学校での食育体験講座

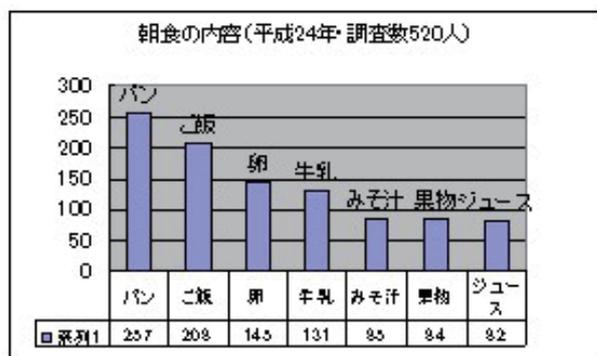
また、朝食に魚を食べる人数が平成21年、22年には26人いたのが23年では14人、24年では8人(520人中の8人)と急激に減少していることもわかりました。衝撃的と言えるほどに魚離れが進んでいるようです。同時に、朝食を作らない家庭が増えているとも思われます。

朝食の欠食はさほど多くはありませんが、朝食の有無について回答しない子供が年々増加しているのが気になります。回答しなかった数を加えると朝食の欠食率は4%から6%に跳ね上がってしまうのです。

太らないためのダイエット経験者は平均1割程度ですが、中学女子では25%にも上り、健康障害が懸念されます。他にもいろいろな問題点が見えてきました。「食」の崩壊が育児放棄や虐待、その他の犯罪に関係があるのではないかとする専門家もいるほどです。



代表の平井 裕子 さん



健全な地域作りは、健全な家庭作りそのものです。健全な家庭作りは、健全な食事の裏付けを必要としています。アンケート調査の結果から、生活学校のメンバーたちは自分たちそれぞれの地域で「食」を大切に思う気持ちを育む「食育」を目指していきたいとの思いを強めているところです。

今、私ども生活学校に出来ることは、食の大切さを、特に朝食の重要性を、周りの人たちに知らせていくことなのです。「簡単にできて体に良い朝食作り」を地域で推し進めることが急務だと思われまます。



生活学校連絡協議会総会

# INFORMATION

## 再生可能エネルギーで 和歌山の未来を創ろう！

2013 開講！ [全5回]

人を、自然を、地域を元気にする、再生可能エネルギー。今、世界各地で新しいエネルギー社会をつくりながら、持続可能なまちづくりを目指す動きが広がっています。あなたも、そんな動きの輪に加わってみませんか。

再エネ事業の実態を知る経験豊富な講師陣を迎え、参加者同士がつながり、学び合うことを目指した、パワー溢れる場。  
是非、ご参加ください！

まちエネ大学  
和歌山スクール 受講者募集！  
プレイベントに参加してみよう！ [無料]

10月28日(月)  
13:30～16:30

場所：ビッグ愛 大ホール  
定員：80名(先着順)  
料金：無料(要申込み)

■お問い合わせ

TEL：045-227-8828

FAX：045-227-8820

E-mail：gpp@greenpower.ws

Ehttp://www.greenpower.ws

地域運営協力：わかやま環境ネットワーク

## きのかわ環境フェア

テーマ『3R運動は地球を救う！』

12月8日(日)

10:00～16:00

場所：紀の川市那賀総合センター

(紀の川市名手市場 1456)

主催：「きのかわ環境フェア 2013」実行委員会

## うちエコ診断 今年も実施中です！

- \* おうちのエネルギーが「見える」
- \* たくさん使っているところに「気づく」
- \* どんな工夫をすればよいか「わかる」
- \* もったいないという心が「芽生える」

詳しくは WeNET ホームページまで

<http://wenet.info/wp/implement/uchieco>

※説明ビデオ 配信中！！

診断期間 2013年12月まで

いますぐ  
アクセス

### 事務局だより

4月に発行した前月号から、はや半年。新メンバーを迎え新たな体制でスタートを切りつつもそれを越える取り組みに追われ、発行が大幅に遅れました。この場を借りておわび申し上げます。今回から編集担当交代で、ういねっと通信はウスイが担当いたします。どうぞ、よろしくお願いいたします。

今年度の活動において、会員のみなさまとのつながりをさらに深めていける仕組みづくりを目指したいと思っています。「こんなことをやってみたい」「こういう問題について集まりたい」といったご意見に耳を傾け、具体的な動きにつなげられる機会を増やしたいと考えます。また、私たちの活動をさらに「見える化」して、多方面での支援をいただけるよう努力いたします。引き続きよろしくお願いいたします。



ういねっと (わかやま環境ネットワーク通信) 第31号 (2013年10月15日発行)

発行：NPO わかやま環境ネットワーク 代表理事 重栖 隆

〒641-0014 和歌山県和歌山市毛見996-2 電話 (073)499-4734 FAX (073)499-4735

e-mail：wenet@vaw.ne.jp URL：http://wenet.info/